



佐賀県には国の重要無形民俗文化財に指定された「唐津くんち」をはじめ、さまざまな祭りや伝統芸能が現代でも行われています。多くが、豊作祈願や収穫を感謝する庶民の行事として伝えられてきました。



唐津くんち御旅所 祭りのクライマックスでは1番曳山「赤獅子」を先頭に、市内を巡

唐津くんち

「くんち」(おくんち)は、旧暦9月9日の重陽の節句のころ、九州北部で行われてきた秋の収穫祭を指します。「九日」・「御九日」あるいは「供日」・「御供日」が祭りの名前の語源と言われています。各地の「くんち」では、御神体が神輿などに乗って、「御旅所」と呼

調べてみよう

祭りを実行しているのはどんな人たちだろう？



COLUMN

趣向を凝らした14台の曳山

「唐津くんち」の曳山は各町内が運営し、赤獅子(刀町)、青獅子(中町)、亀と浦島太郎(材木町)、九郎判官源義経の兜(呉服町)、鯛(魚屋町)、鳳凰丸(大石町)、飛龍(新町)、金獅子(本町)、武田信玄の兜(木綿町)、上杉謙信の兜(平野町)、酒吞童子と源頼光の兜(米屋町)、珠取獅子(京町)、鯨(水主町)、七宝丸(江川町)が伝えられています。明治中期までは黒獅子(紺屋町)もありました。

行した曳山が次々と御旅所へ曳きこまれます。

ばれる目的地まで移動する「御神幸」が行われます。その目的地である「御旅所」までは、大名行列や稚児行列、曳山、山笠などに囃子、踊り、獅子舞などが加わりますが、地域ごとに内容は異なります。

佐賀県を代表する「唐津くんち」は、11月2日から4日の唐津神社の秋の例大祭に行われます。豪華な曳山が、笛・太鼓・鐘の囃子にあわせ、曳子たちの「エンヤ、エンヤ」「ヨイサ、ヨイサ」の掛け声とともに、唐津市

内の旧城下町を巡ります。

「唐津くんち」に曳山が登場するようになったのは、1819(文政2)年に一番曳山の「赤獅子」が奉納されてからのことです。曳山は、木組み等の上に和紙を一閑張りで貼り重ね、漆を塗ったもので、江戸時代から明治時代にかけて製作されました。現在、曳山は全部で14台あります。

これらの曳山は、佐賀県の有形民俗文化財としても指定されています。さらに、2016(平成28)年には「唐津くんちの曳山行事」を含む「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

**国指定
重要無形民俗文化財(佐賀県)**

| | |
|---|------|
| たけお 武雄の荒踊 (武雄市朝日町/東川登町/西川登町) | 風俗慣習 |
| からつ 唐津くんちの曳山行事 (唐津市) | 風俗慣習 |
| たけざきかん 竹崎観世音寺修正会鬼祭 (藤津郡太良町) | 民俗芸能 |
| しらひげ 白鬚神社の田楽 (佐賀市久保泉町) | 民俗芸能 |
| みしま 見島のカセドリ (佐賀市運池町) | 風俗芸能 |
| よぶこ 呼子の大綱引き (唐津市呼子) | 風俗芸能 |

伊万里トンテントン

「喧嘩祭り」として知られる「伊万里トンテントン」は、伊万里市の伊万里神社の御神幸祭で伊万里供日とも呼ばれ、毎年10月下旬の3日間、行われます。荒御輿と団車が市内各所で激しくぶつかり合う勇壮さが見所で、祭りの名前は、太鼓の「トン・テン・トン」の音からきています。

最終日に行われる「川落とし」では、荒神輿と団車を組み合わせたまま伊万里川に落として、陸に早く引き上げた方が勝ちとなります。荒神輿が勝つと豊作、団車が勝てば大漁になると言い伝えられています。

県内各地に残る民俗芸能「浮立」

「浮立」は、佐賀県を中心に行われる伝統的な民俗芸能です。語源は平安末期にはじまる「風流」です。元来、祭礼の行列の華やかな飾りつけを



伊万里トンテントン(伊万里市)
神輿と団車が市内各所で激しくぶつかり合う勇壮さが特徴の祭です。(佐賀県文化財課提供)

「風流」と呼んでいました。それが神社の秋の収穫祭と結びついて、佐賀地方では「浮立」と呼ばれる舞や踊りとして芸能化し、継承されてきました。

各地で、鬼面をつけたり仮装したりして、鉦、太鼓、笛の囃子にあわせて踊りが奉納されます。

よく知られた佐賀の「浮立」の一つに「天衝舞浮立」があります。もともとは雨乞いのために行わ



ほうかうら
母ヶ浦の面浮立(鹿島市七浦)
鎮守神社の秋祭に奉納されている面浮立で、県指定の重要無形民俗文化財です。(香月浩氏提供)



市川の天衝舞浮立 (香月浩氏提供)
「てんつく」と呼ばれる大きな被り物を着けて、秋祭り
りで奉納されます。

れたものですが、現在では秋の祭礼で奉納されるようになりました。また、藤津地方(鹿島市、嬉野市、太良町)などには、鬼の面をかぶって勇壮に踊る「面浮立」が伝えられています。県内には他にも、有明海沿岸部には「鉦浮立」や「太鼓浮立」、伊万里市や武雄市

には演劇的な要素を取り込んだ「舞浮立」などが継承されています。いずれも、昔から稲作が盛んだった佐賀で、人々が神社に豊作を願い、そして収穫への感謝の気持ちを込めて奉納してきました。

その他、佐賀には、神崎市仁比山神社の「御田舞」、佐賀市白鬚神社の「田楽」、神崎市高志神社の「高志狂言」など、貴重な民俗芸能が伝えられています。一方、継承者不足によって途絶えようとしている民俗芸能もあります。もう一度、地域の祭り
に目を向けて考えてみましょう。

学校の取組

【全国にたった2校】

北陵高等学校
バルーン部
バルーン部は全国に2校しかありません。佐賀バルーンフェスタ等の大会にも参加し、日々佐賀の空でフライトしています。



仁比山神社(神崎市)御田舞 (香月浩氏提供)
12年に1度、申の年に豊穰を祈願する祭りです。「大御田祭」とも呼ばれます。

調べて書いてみよう!

身近な地域のお祭りはどんなものがあるでしょうか。調べて書き込んでみましょう。



白鬚神社(佐賀市)田楽 (香月浩氏提供)
子どもが演じることから「稚児田楽」とも呼ばれます。



高志神社(神崎市)高志狂言 (香月浩氏提供)
幕府に認められた鶯流狂言の流れを受け継いでいます。

出かけてみよう!



唐津曳山展示場 (唐津市西城内 6-33)

唐津くんちで使われる曳山が展示されています。
TEL 0955-73-4361 / 休館日 11月3日・4日、12月第一火・水曜日、12月29~31日 / 開館 9:00~17:00
(佐賀県文化財課提供)



検索してみよう!

さが祭時記まつりびと

佐賀県の文化財

